

## つちだの観戦レポート

第86都市対抗野球大会 東京都二次予選第一戦 NTT 東日本戦まであと4日の5月22日 JFE 東日本とのオープン戦を八王子グランドで行われた。21日は HONDA と同じく八王子グランドでオープン戦を行い打合いの結果5対9で敗れた。JFE 東日本戦は大会前のチーム力の状況把握と選手の動き、投手の調整・コントロール、打撃は繋ぐ意識を持った打撃を踏まえての試合と考えて柏の自宅から片道3時間をバス・電車(常磐線・武蔵野線・中央線)・バスと乗換えて八王子グランドに向かった。試合は1回先発投手が制球定まらない内に先頭打者に初球ライト前ヒット次打者犠打一死二塁のピンチに3ボール・2ストライクからライトスタンドに2ランホームランと早々2点の先取点を許し3安打1エラーで2点追加されこの回4点を献上したが以後要所を押さえ4回2/3を初回の4失点(自責点2)に抑えまらずの出来。(初回はボールが高めの若干単調なピッチングで撃たれた。)2番手の投手は順調に仕上勝っている模様。残念なことは8回先頭打者の初球に投げた高めのボールを左中間スタンドに運ばれ、不用心の投球と悔やまれる。9回から3番手ベテラン登板先頭1番打者・2番打者をセンターフライに抑え若手投手にバトンタッチし3番打者に四球を与えるも4番打者をショートゴロに抑える(3番打者に四球は戴けない。)

投手陣は不用意な投球を防ぎ一球闘魂の気持ちを前面に出し強気のピッチングで NTT 東日本打者に立ち向かって抑えてほしい。

打撃陣は前半相手投手に翻弄され4回1死後3番荒川が渋くレフト前にチーム初安打、4番 DH 加藤は凡打で2死1塁5番竹内(一)がライト前と繋ぎ続く6番島田がセンター前に運び荒川が一挙セカンドからホームインで1点返す。2死から繋いで得点は希望が持てる。5回先頭8番本田がライト線へ二塁打9番野地のセカンド進塁打で1死3塁1番増野に期待するも渋いセカンドゴロに終わるも本田が果敢に三塁から本塁へ突進し2点目を得る。この泥臭い得点が1点の重みとなり勝利を呼び込み今の明治安田に必要な攻撃だと思っている。以後相手の継投策に打撃陣は抑えられ2対5で敗れる

打撃陣では期待の増野・加藤が無安打と元気がなく、この二人の長打が無いと戦いは苦しくなる。

荒川選手は2安打とまらずの出来本大会でも此の調子を落とさず持続して欲しい。

投手陣は前にも述べたが常に緊張感を維持し一球闘魂の精神でコントロールを重視し投手有利なカントで打者に立ち向かってほしい。今のピッチングスタッフならば出来ないことは無いと固く信じています。

第一戦の NTT 東日本に勝利することは代表に一步近づく道標。



明治安田硬式野球部スローガン



名将 林監督